

2. 山武市の位置と景観構造

1) はじめに

本章は、山武市の基礎的情報から仮説的に「山武らしさ」を導くことを目的とする。まず、山武市の地理的特性を把握するため、千葉県における山武市の位置、地形的概要、面積、人口をまとめる。さらに、景観的特性を把握するため、2007年度に行った景観資源調査で得られた知見をまとめる。その上で、山武らしさを仮説的に述べる。

2) 山武市の位置、地形的特性

山武市は、千葉市中心部から東へ約20kmの場所にあり、約8kmにわたる九十九里海岸と、その後背地である広大な沖積平野がある(図1)。沖積平野のさらに内陸部に、標高40～50mの丘陵地帯が展開している。これらは、北西から丘陵地帯、沖積平野、海岸とほぼ平行に帯状に形成されている(図2)。

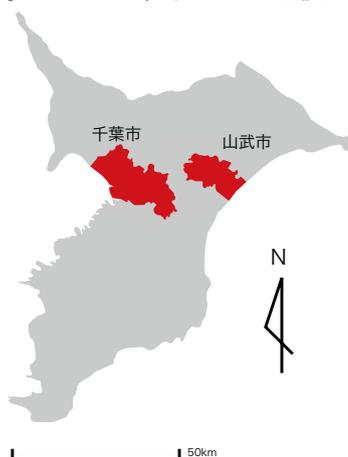


図1. 山武市及び千葉市の位置

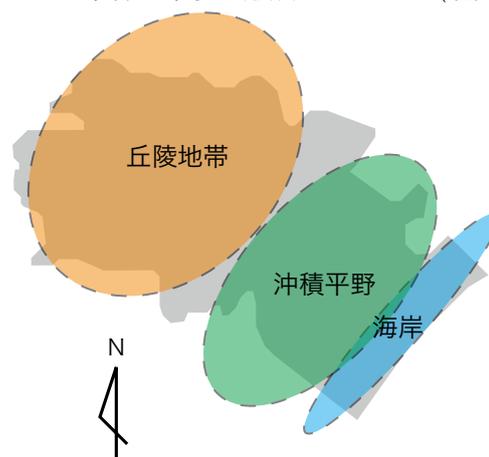


図2. 山武市における地形的概要

3) 面積、人口

平成23年千葉県統計年鑑^{注1)}の地目別面積^{注2)}によると、山武市の面積は、146.38km²である。平成24年4月1日現在の登録人口によると、21,974世帯57,249人が居住^{注3)}している。この内65歳以上の人口は25.7%で、高齢者の割合が高い(表1)。

さらに地目別面積^{注4)}によると、山武市の総面積に対する田、畑、山林、原野の合計面積の割合は、田が22.0%、畑が20.1%、山林が19.2%、原野が0.5%である(図3)。千葉県には54の市町村がある^{注5)}が、田、畑、山林、原野の合計の割合を比較すると、多古町が74.6%と最も高く、山武市は61.9%で11番目に高い。県庁所在地である千葉市は30.2%である。

表1. 山武市の人口と性別別人口、年齢区分別人口、世帯数、面積

人 口 (人)	総数	57,249	男性	28,490
			女性	28,759
	15歳未満	6,239		
	15～64歳	36,283		
	65歳以上	14,727		
世帯数(世帯)	21,974			
面積(km ²)	146.38			

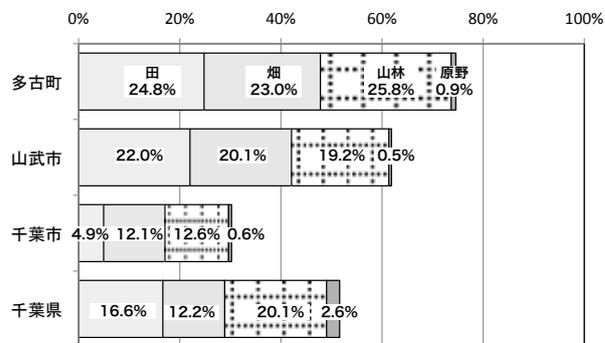


図3. 千葉県の主な市町村における田、畑、山林、原野の割合

注1) 平成23年千葉県統計年鑑 <http://www.pref.chiba.lg.jp/toukei/toukeidata/nenkan/nenkan-h23/index.html#a2>

注2) 市区町村別面積 <http://www.pref.chiba.lg.jp/toukei/toukeidata/nenkan/nenkan-h23/documents/005n.xls>

注3) 町丁字別世帯数及び男女別、年齢(3区分)別人口—山武市 <http://www.pref.chiba.lg.jp/toukei/toukeidata/nenreibetsu/h24/machichou.html>

注4) 地目別面積[2011(H22)年]「数値は、2011年(平成23年)1月1日現在で市町村の土地課税台帳及び土地補充課税台帳に登録された土地の地積に非課税地の地積を加えたもの」とし、「田の地積は介在田及び市街化区域田を、畑の地積は介在畑及び市街化区域畑を、山林の地積は、介在山林をそれぞれ含む」としている。

注5) 平成25年1月1日現在 (<http://www.pref.chiba.lg.jp/kouhou/map.html>)

4) 山武市における景観構造の調査

①調査の方法

本調査では、山武市を「陸」、「浜」、「丘陵北」、「丘陵南」の4地域に分類した(図4)。海岸部分を中心とする地域を「浜」、沖積平野における「浜」以外の部分を「陸」とした。また、丘陵地帯の北側に位置する旧松尾町を中心とする地域を「丘陵北」、南側に位置する山武町を中心とする地域を「丘陵南」とした。

それぞれの地域でまちあるきを行いながら、景観資源となりうる景観を写真撮影した。

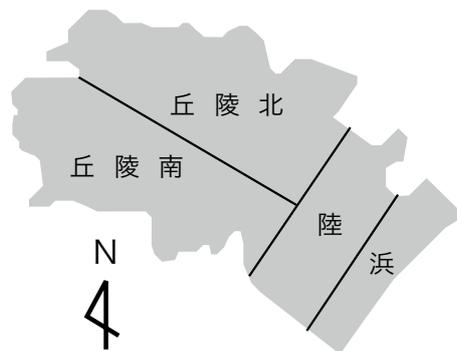


図4. 調査地域の分類とその名称

②調査日程

「浜」、「陸」、「丘陵北」、「丘陵南」の4地区に対し、それぞれ3日間をかけて調査を行った。調査日程を以下にまとめる。

- 1) 2007年8月20日～8月22日 「陸」地区
- 2) 2007年8月23日～8月25日 「浜」地区
- 3) 2007年9月3日～9月5日 「丘陵北」地区
- 4) 2007年9月25日～9月27日 「丘陵南」地区

また、上記の日程で得られた知見を補完する目的で、以下の日程で追加調査を行った。

- 5) 2008年2月26日～2月29日 山武市全地域

③調査結果

山武市内の267ヶ所で627の景観資源を抽出した。ここから得られた知見を用いて山武市の景観構造をまとめる(図5)。

山武市の地形は、国道126号線付近を境に北西を丘陵地帯、南東を沖積平野に分類できる。前者には水田、畑地、林地の混合地、および谷津田が多く分布するのに対し、後者では、水田、畑地が分布している。

丘陵地帯は、丘と谷の地形で構成されている。丘の標高は高くても40～50mと全体的に緩やかな勾配で形成されている。丘の斜面地では、林業による林が形成され、剪定された山武杉の群を見ることができ、丘の頂上部の台地でも同様に林地が見られる(写真1)が、これを切り開いたと見られる田畑も多く見られる(写真2)。谷では河川を中心に谷津田が形成され、その両側に林の壁が河川に沿って連なっている(写真3)。谷津田は、利水の見込まれる場所であれば狭小地でも形成されている。集落は、丘頂部の台地にも見られるが、丘と谷の境界線上にも集落が点在している(写真4)。

沖積平野では、成東駅、松尾駅周辺に商店街や住宅の密集が見られる。また国道126号線沿いには、大型商店が点在している。それより海側の国道に近い場所には、水田が広がる。それよりもさらに海側では、水田の割合が多いものの畑地も見られ、水田と畑地が混在している。丘陵地帯と沖積平野の境界付近の斜面地の高台には、複数の神社が点在しているが、ここから沖積平野が一望できる(写真5)。

山武市では、生け垣を用いる民家が多く視認できる(写真6)。海岸に近く、これと平行して走る道路に、県道30号線、県道122号線があるが、この沿道の多くの民家でも生け垣を用いており、生け垣の回廊が形成されている。

5) 地理的特性による景観構造からの山武らしさ

本章では、千葉県における山武市の位置、地形、人口、面積についてまとめた。また、山武市の景観構造についてまとめた。

山武市は、面積の6割を田、畑、山林、原野が占めており、多くの場所で農村景観がみられる。また、九十九里海岸の中央部に位置しており、海岸も保有している。山武市の地形は、大きく丘陵地帯、沖積平野、海岸の3つに分類できる。丘陵地帯では、山林、里山、谷津田などの景観があり、沖積平野では、田園などの景観、海岸では、九十九里海岸が形成した遠浅の海がある。それらは、それぞれが固有性を持っている。すなわち山武には、地形的に3つの側面があり、その特性を受けながら、その地形固有の景観を創出していると言うことができる。

これらのことから山武市には、地形的特性による三面性を持った農村景観および海岸景観があり、「山武らしさ」とは、こうした景観が保全されていることであると仮説的に結論する。